

防災マニュアル（ドライバー編）発災後の措置

トラック走行時に自然災害に遭遇した緊急時の対処法で最も重要な事は「慌てない」ということ。

冷静に対処すれば切り抜けられる緊急時でも、慌ててパニックに陥ると適切な対処法を見失い、人命にかかわる深刻な状態になってしまう。

●運転中に地震が発生

- ・急ブレーキ、急ハンドルは横転する可能性があり危険、慌てず落ちついて後続車両が気付くようにハザードを点灯、冷静に徐々に減速して建物や電柱から離れた場所で停車する。
- ・車両を安定させるため、ハンドルをしっかりと握り、他の車両との追突を避けるため、車間距離を十分に保ち、道路状態を確認しながら適切に進行状況を判断することが重要です。
- ・揺れが収まってもすぐ車外には出ない。余震が発生する可能性があり、安全性を確保するため、しばらくはシートベルト着用のまま周囲の状況が落ち着くまで車内で待機すること。
- ・橋やトンネル、高架橋の下は危険個所なので注意して速やかに通過する。通過が困難な場合は左側に停車し、橋やトンネルの外に徒歩で避難する。
- ・交差点内や道路中央部は、緊急車両が通行できるように避けて道路の左側に寄せてエンジンを停止する。
- ・カーラジオ等で地震や災害情報を確認、警察官が周辺にいれば指示に従う。海岸付近にいる場合は、津波の恐れがあるため高台に避難する。
- ・会社に安否確認の有無について電話・災害伝言ダイヤル（171）、伝言版メール。（社内で事前に決定）併せて現在地、周辺の状況、自身の状態、車両や積荷の状態なども連絡する。
- ・車両を離れて避難する場合、窓を閉め、エンジンキーは付けたまま、ドアロックはしない。車検証、ETCカード、貴重品、軍手、タオル、携帯電話を携行。
- ・事前に把握している走行ルートに沿った避難所、広域避難所、高台の位置などを地図やナビ上で確認しておき、緊急時に車両を安全に駐車できる場所へ移動。

●ドライバーの防災グッズ(車中保管品)

- ・簡易トイレ～出られなくなった場合に活用 ・カイロ、毛布(暖を取るため必要) *カイロは使用期限に注意
- ・電池、モバイルバッテリー～携帯電話、懐中電灯に活用 *バッテリーは発火を防止するため車内の温度に注意
- ・非常食、飲料水～非常時に備えて缶詰、カロリーメイト、レトルト食品、乾パン、お茶、水、ポカリ、2～3日分、コンビニの袋～包帯替わり
- ・懐中電灯～夜間使用のため必要、車外でも活用、スマホを長持ちさせるため。ヘッドライトやネックライトがあれば便利
- ・ホイッスル～携帯がつかない場所で自身の位置を知らせるために必要 ラジオ等～携帯電話充電機能、ライト付、ウオッシャー液(吹雪等の悪天候に備え)
- ・着替え服等～下着、作業服、軍手、救急用品・衛生用品～消毒液、絆創膏、トイレットペーパー、マスク